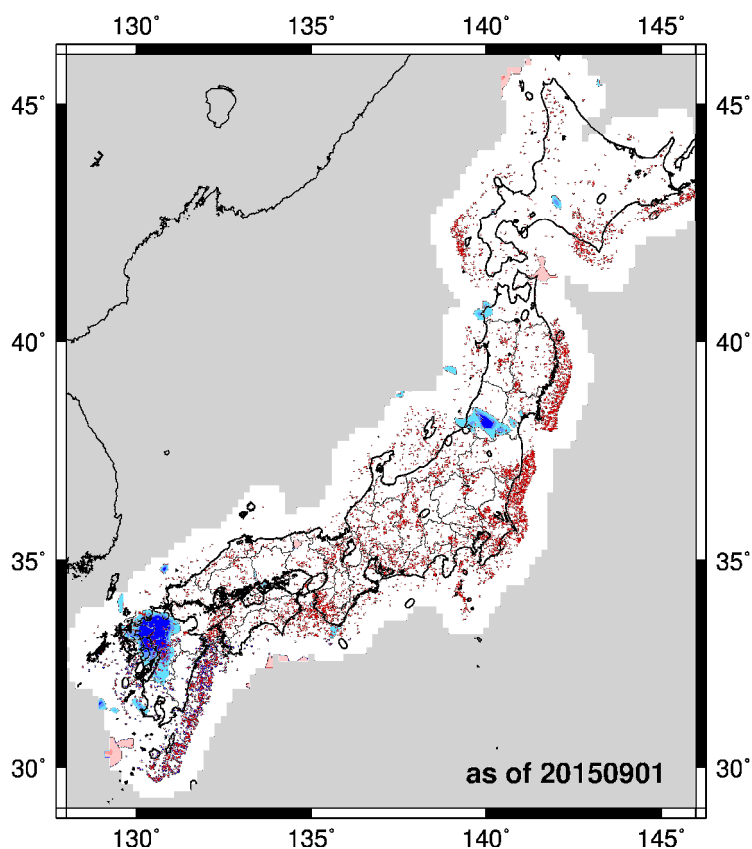


日本列島の陸域の解析

熊本地震発生からもうすぐ3ヶ月となります。今回の解析は陸域のみを解析対象とした地下天気図です。現地を6月末に訪問しましたが、道路にかかっている家屋などは公的資金によるがれきの撤去も行われておらず、基本的に個人での再建が原則である事を思い知らされました。時間が止まってしまっている地域が多くありました。



昨年の秋（9月—10月）の時点で、九州北部に顕著な地震活動静穏化現象が発生し、それが今年の3月に消失した事等から、九州北部で内陸地震の発生可能性が大きい事をお伝えしていましたが、その後の状況を計算してみました。

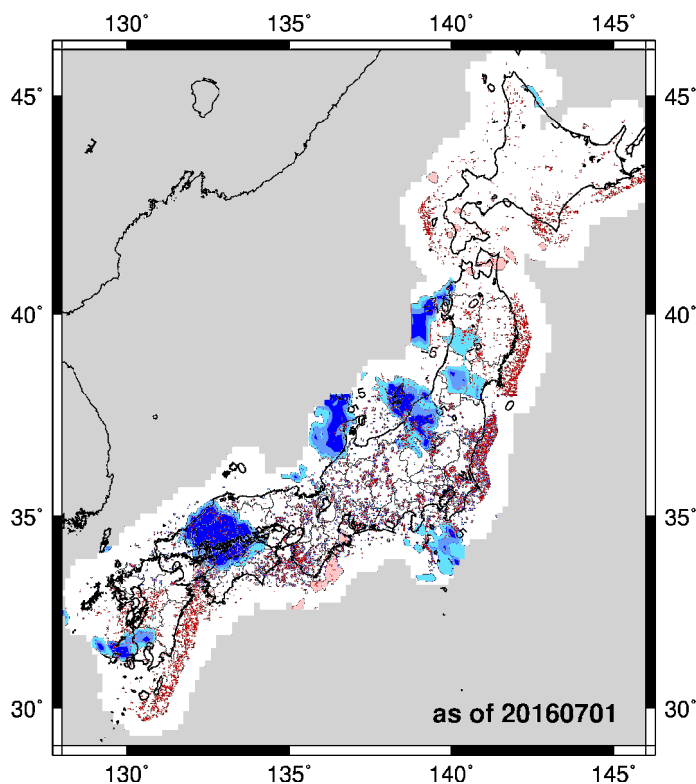


昨年9月1日の状況（熊本地震前）。顕著な静穏化（青い領域）が九州北部に広がっていた。地下天気図の場合、**静穏化が終了してから地震が発生**する可能性が高い事が経験的に知られています。さらに**異常の中心より周辺部で発生**する可能性が高い事も経験的に知られています。

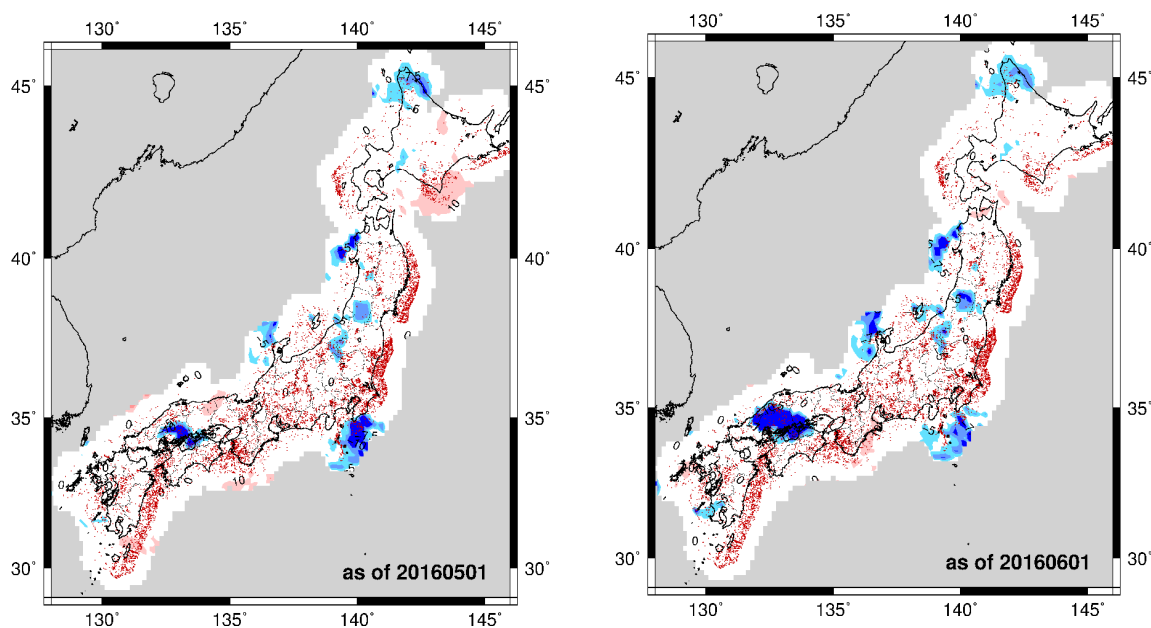


2016年5月からの推移

下の地下天気図は7月1日時点（最新）のもので、どうもここ2ヶ月ほど、日本列島全体の地震活動度が変化しているようで、かなり日本全国各地で静穏化領域が広がっている事がわかりました。特にその静穏化の形状から注目しているのが、中国・四国地方に広がる静穏化（青い領域）です。



下の2枚の図は今年の5月1日（左側）と6月1日時点（右側）の地下天気図です。5月には小さかった中国・四国地方の静穏化領域が月ごとに大きくなっているのがわかります。



今回の解析は“陸域のみに特化”したもので、熊本地震とともに地震活動が活発化している九州南西沖の海域のデータは含んでおりません。熊本地震そのものは順調に収束に向かっていますが、今後も九州南西沖の活動には注意を払っていかなくてはなりません。